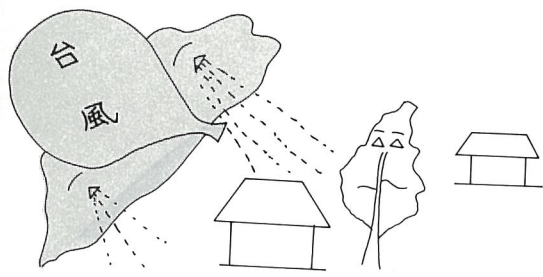


台風シーズン到来

—ふだんの心がけを大切に—



台風に備えて

八月、九月は台風のラッシュで、台風の通路に当たる日本列島では、毎年各地で被害をこうむっています。

台風情報を聞くときに気を付けたいことと、ふだんの備えについてスポットをあててみました。

風向きの変化と

台風情報の進路

台風情報に耳を傾けよう

台風が日本に近づくと、テレビやラジオから台風情報が刻々と流れるようになります。台風に対する備えは、まず、この台風情報を正しく理解することから始まります。

台風情報を聞くときは、次の点に注意しましょう。

◎一回だけの情報で独り

よがりの判断を下さない

台風の進路は刻々と変化しています。最初に出した情報が修正されることもしばしばで、一度だけの情報で早のみこみをするのは危険です。次々に出される予報を注意深く聞きましょう。

◎地元の予報を大切に

地元の気象台や測候所の予報

と全国的な予報とでは、表現が違っていることがあります。

そういう場合は、迷わずに地元の子報を採ってください。

地元の気象台は、その土地の防災上のコツや被害の出やすい場所などをよく知っているため、より細かい予防ができるからです。

◎風の吹き方にも注意を

台風が住んでいる地方の東側を通るか西側を通るかによって、風の吹き方と強さが違ってきます。

西側を通った場合は、まず東から吹き始め南東→南→南西→西の順になり、東側を通った場合も最初は東から吹き始めますが、次には北東→北→北西→西の順に風が吹きます。

また台風は左巻き（北半球の場合）のために、住んでいる地域の東側を通るか西側を通るか、風の強さがかなり違います。

西側を通った台風は、台風自身の風と、台風を押し流す風が同一方向になってしまふので、より強い風になります。反対に東側を通過した場合は台風の風と台風を押し流す風がぶつかり合うので風が弱くなります。

このように、風向きの変化と

台風の進路には密接な関係があります。

風の吹き方を知っていると、もし停電などでテレビやラジオの情報が開けなくなった場合でも、台風の動きを知る有力な手がかりとなります。

◎非常用品を備えよう

台風が近づいたら、いざという時のために少なくとも次のようなものを用意しておきましょう。

懐中電灯・トランジスタラジオ（予備の電池も）・当面の食料品・水筒・応急医薬品（かぜ薬、胃腸薬、傷薬、消毒薬、ガゼなど）・ビニール袋・その他必需品。

これらの非常用品を袋などに詰めて、いつでも持ち出せるようにしておくとお安心です。

◎地域の特性を知ろう

まず、自分の住んでいる地域の特性をよくつかんでおくことが大切です。地理的にはどんな特徴があるか、どのような特徴があるか、どのような災害が起こりやすいか——など、近所の人たちと話し合っておくのもよいでしょう。

また、いざという場合の避難

場所や避難経路を確認しておくことが大切です。

そのほか、家やへいなどの古くなった部分を修理したり、溝や下水の詰まっているところは掃除をするなど、ふだんから家の周りの「備え」を怠りなくしたいものです。

台風の大きさ・強さの表現

大きさの分類		強さの分類	
程度	1000ミリバールの等圧線の半径	階級	中心気圧
ごく小さい	100 km未満	弱い	990 ミリバール以上
小型（小さい）	100～200〃未満	なみ	960～989 ミリバール
中型（なみ）	200～300〃未満	強い	930～959 〃
大型（大きい）	300～600〃未満	非常に強い	900～929 〃
超大型（非常に大きい）	600 km以上	猛烈な	900 ミリバール未満